# 令和七年第6回庄原市議会　横路議員
# 本市の将来像とスマートシュリンクの考え方について

【横路政之議員】それでは私は大きく3項目について質問いたします。まず最初の質問でございます。本市の将来像についてお伺いいたします。

本市の人口は3万人を割り込もうとしております。合併時の4万4000人の人口も、20年で約1万4000人減少し、また若い世代は約3000人減少しており、人口減少は本市のまちづくりの将来像を大きく変えようとしております。

第3期庄原市長期総合計画における政策体系案では、3つの柱のもと、様々な政策が提示されております。市民の皆様が日々幸福を感じられる、これはウェルビーイングと言いますけども、には欠かすことのできない項目でありますが、人口減少が今後も進む中、今まで通り事業を進めるという感覚では、達成は困難と考えております。まず見解をお伺いします。

また、人口が減っても一人一人のウェルビーイングが損なわれないことを目指すスマートシュリンク、これは賢く縮むという考え方でありますけども、本来の現在から将来を考える時、スマートシュリンクをまちづくりの旗印に掲げるべきだと考えますが、見解をお伺いします。以降は質問席から質問いたします。

【八谷市長】ご質問にお答えいたします。
先般の長期総合計画審議会専門部会におきまして、第3期長期総合計画の素案をご説明し、本市の目指す将来像を「安心な暮らしが充実し、庄原に関わる人の未来がつながっていくまち」とお示しをいたしました。
人的、財政的資源が限られる中で、この将来像を実現するためには、各政策を適切に体系化し、効果が高い事業を構築、実施することが重要であります。合わせて、事業がどのような効果や成果を生んだのか、社会の変化に対応しているのかを随時検証し、より効率的で効果の高い取り組みへと改善していく必要があると認識をしております。

こうした検証を積み重ね、満足度の向上を測定しつつ、機動的に見直す事業の進め方へと転換し、市民の皆さんのウェルビーイングの実現を図ってまいります。

スマートシュリンクの表現につきましては、第3期長期総合計画の素案には明記をいたしておりません。しかし、素案に記しております通り、国が地方創生2.0で示す、人口規模が縮小しても社会経済が機能し得る豊かな社会の実現を目指す考え方を、第3期計画の策定にあたり基本的に踏まえるべき事項として捉えております。

この考え方は、人口減少は避けられないという認識に立ち、身の丈に合った住民のウェルビーイングを重視した地域づくりを目指すものであり、生活拠点の集約、連携とサービスの最適配置により、暮らしの質を維持するとともに、地域経済を支える基盤産業を育成し、その成長戦略を描くとする第3期長期総合計画の方針と相通じるものと認識をしております。以上です。

【横路政之議員】今、3期長期総合計画をするにあたり、その時々の状況、人口が減るのは分かる、そういう前提のもと、その時々に応じて機動的に事業なんかも見直していくと、いうふうに答弁されま

した。

これはですね、1期の時も2期の時もだいたい同じような答弁なんですよ。だからそんなに、もう、ここにも政策体系の案がありますけども、どれ一つ取っても、一つ欠けても皆様が満足できるような政策にはならないわけです。全部これ必要なんですよね。

先ほどの答弁を聞きまして、どう言んですかね、1期と2期とそんなに変わらんような感覚なのかなあと、私は思うんです。私の質問のしょっぱなにも言いましたけども、もう3万人切る状況ですよね、20年で。あと10年したら、この減少率でいきますと2万3000人ですよ。もう想像ができません、庄原市のまちづくり、どうにするのかというのが。

そういった中で、ここは本当にこう、考え方をもう少し改めてですね、市民の皆様に、このままでは危ないんだというような感覚をですね、恐怖を与えるんじゃないんですけども、現状をこういったものであるから、さっきも言いました、賢く縮んでいくしかないんですよと、やっぱり表明することが大事なんかなと思うんです。再度答弁があれば聞かせてください。

【企画課長】はい、ご質問にお答えをいたします。
市長の答弁にもございましたけれども、議員が先ほどこの質問で提案されたスマートシュリンクの考え方につきましては、今回の第3期の長期の素案でも、国の地方創生2.0の考え方を元に、人口減少、これは格好たるものだという前提でまずは基本的な柱立てを考えております。
そうした中で、これまでも所信表明でありますとか、様々なところで発信をしてまいりましたが、市民の方が抱えている不安、そうしたことを払拭をして、市長の方が目指すべき将来像をまずは市民の安心を守っていくんだというところをですね、まずは主眼に置いて、かつ人口が減る中でも、縮まっていく中でも経済成長を求めていくと。これまさにスマートシュリンクの考え方と一致しているのではないかなというふうに思っております。

市民の皆さんに対してそうしたところを、どのように訴えていくかというところですけれども、考え方自体はですね、同様な考え方に立っておるという認識で我々はおりますので、この長計の策定、それから新年度予算に向けての整理を通じてですね、具体的な取り組みであるとか、施策のところを、解像度を上げる中で、しっかり皆さんにも共有をしてまいりたいというふうに考えております。

【横路政之議員】言われることは分かります。もう私の言うことは、よく分かる、そういったものを内包した今までの市長の見解とかいうのは発信してきているというのも分かります。

ただ、今の先ほどのしょっぱなの答弁、適宜、状況を見ながら変えるところは変えていくと。それではね、やっぱり市民の皆さんは、あ、今まで通りやってくれてんじゃのうと、そういう感覚になるんではないかと私は思うんですよ。

やっぱりきちんと、このままでは庄原市減り続けると、今本当に転換して、方向性をきちんと見定めて、賢く縮んでいくしか生きる道はないんですよというふうに、やっぱり表明することが大事ではないかと思うんです。

そして、今まで、先ほど言われました、見直す時点においてもやっぱり市民の皆様の理解がないと、そこを、どの部分か分かりませんけども、ここを少し、しぼめていくと、そういうふうなことを、表明されるとですね、やはりそういう意識がない中で受ける方は、え？どうなっとるんと、いうような感じを受け

てんじゃないかというふうに思うわけです。

だから、きちんと今からの庄原市は賢く、賢くですよ、縮んでいきますよと、それしかもう生きる道はないんですよというふうに表明して、皆様の意識の中に、こういう状態なんだなというふうに思っていただけるような前提を作ることが、今から人口が減る、当然、それに伴って財源的にも厳しくなる、そういったのを理解してもらう、このそこの部分ですね、これができてくるんではないかというふうに思うわけです。

端々でこう言われてもですね、そういったものをきちんと、長、自ら表明されてですね、そうなのかというような、こう市民の皆様に理解してもらうのが一番大事ではないかと思うんですけども。どうでしょうかね、私の考えは間違ってますかね。

【企画課長】はい、ご質問にお答えをいたします。
これまでと、これまでの2期の長期総合計画と、同じ轍を踏むんではないかというような、懸念を持たれているというふうに思いますけれども。我々、今回の3期の計画を策定するにあたりまして、これまで2期の通りにやってきたのでは、求めるべき成果は難しいんじゃないかという反省も込めてですね、仕組みと言いますか、柱立てからかなり考え方も変えてきたつもりではあります。
政策のレベルにつきましても、これまで2期のものをですね踏襲する形ではなく、もう一度目的をまず明確にして、何を求めていくのかっていうところをしっかり整理をした上で、柱、3つの柱に紐づく政策構成に、変えてきております。そうしたことを、端的に前回の議会の方でもいくつか答弁もさせていただきましたが、これまでの延長線上にない取り組みも含めて、新しいチャレンジをしていくと。

そうした中で、先ほどおっしゃいましたように、何もかもその風呂敷を広げるということは難しいということも認識をしておりまして、例えば3期の長計では、3本目の柱とは別に、行政の役割ということで行政経営の刷新という項目も立てまして、その中ではいわゆる、財政の、適、運営の、財政運営の、適正化であるとか、公共施設の今後のあり方であるとか、そういった分野が、ここに整理をされているという形であります。

どちらかというとですね、やはり賢く縮むということを念頭に置きますと、そうした部分のところが、今後ですね、キーになってこようかなというふうに思いますけれども、そうした取り組みを進めていくためには、先ほどおっしゃったように、やはり市民の皆さんにしっかり情報提供した上で理解を、求めていくと。で、そうした場については、丁寧にですね、発信の場を設定をしていくことは重要かというふうに思っております。

ちょっとその、うーん、どの、どういった打ち出し方が適切なのかというのは今後庁内でも様々検討してまいりたいと思いますが、そうした認識のもとに進めていこうということは、ご理解をいただければというふうに思います。

【横路政之議員】ある程度は理解しました。やはり、今まで通りとは、にはいかないよと、こういうような考え方なんだなあと。ただですね、やっぱりしつこく言うんですけども、例えば公共施設なんかも減らしていきますよと、補助金も減らして、もう少しずつ減らしていきますよと、から経常経費なんかでもあります、これでも少しずつ減らしていきますよと。

そういったのを、こういった書類の中では説明してなら、まあ説明つくんすけども、市民の皆様の意識

として、やはり今後は賢く縮んでいくしか方法がないんですよと、ただ全てをもう財源がないからそこそこ、打ち切るというような方法ではなく、皆様の理解を得ながら少しずつ縮んでいくんですよというふうな、そういった表明んですかね、をやっぱりどっかで必要があるんではないかと思うんですよ。

そうせんと、やはり市民の皆様の理解は得られないし、少しずつではありますけどもそういったことを実施していく過程の中では、皆様の市民の皆様との意識とのこの歪みと言いますかね、が生まれるんではないかというふうには思うわけです。

他市の例で言ってもしょうがないんですけども、そういった表明をされて当選された町長さんもおられます。まちの将来を考える時に、もう賢く縮んでいくしかもう生き残る道はないんだと、いうふうな表明をされて町長になられてそれを実践されておられるまちもあります。

庄原市の将来を考える時、そういった考え方をきちんと表明すべきだと思うんですけどもね。市長どう思いますか。部長さっき考え方一緒じゃて言われましたけども。一緒なら市長がね、いう、表明してならどうですか。なんかできん理由があるんですかね。考え方が同じて言われたんですけ。言うとまずいんですか、やっぱりどっか。

【八谷市長】はい、お答えをいたします。決してまずいようなことはありません。私、選挙の時からもそのように縮むべきところは縮むだろうというふうなことを考え、また訴えて、臨んでまいりました。また先ほどから答弁にもありますように、長期総合計画の基本的な、踏まえるべき事項として、その計画そのものを、そういう視点にて、作っております。そちらの方で具体的な、表明と言いますよりももう基本的な考え方にどうしもこれは入ってきておりますので、その点に関しましては計画を持ってまた皆様にお示しも、具体的な点についてお示しもさせていただきます。

しかしながら庄原市大変広うございますので、それぞれの地域地域での課題感が若干違っております。ですので、捉えられるべき捉えられ方もまた違って見える部分もあろうかと思いますが、しかしながら第2期、第3期、あ第1期第2期も含めてですね、人口が減るというものはこれはもう基本的な、もう明らかに分かっている部分でございますので、この部分はこれからもまた住民の皆様、市民の皆様に丁寧に説明をいたしながら、今後の事業を進めていきたいというふうに考えております。

【横路政之議員】市長からはも、表明いうんですか、答弁出ましたんで、やっぱり私はそういうふうに思っております。今後どういった表明、説明の仕方されるか分かりませんけども、そういった視点を持ってですね、市民の皆様に理解が得られるような方向性を打ち出していただければと思っております。

## 庄原市の魅力発信について（葦嶽山の環境整備）

【桂藤和夫議長】
それでは次に移ります。庄原市の魅力発信について。11番、横路政之議員。
【横路政之議員】
本市には多くの古墳が存在しています。その中には国・県・市指定の史跡や墳墓群もあります。また、イザナミノミコトが葬られていると伝わる御陵や、神武天皇陵とも伝えられている葦嶽山など、本市の魅力を発信できる観光資源が多数存在いたします。
このような観光資源を最大限活用・PRすれば、関係人口の増加に大きく貢献できると考えられます

が、現場整備が追いついていないように思います。神武天皇陵と伝えられる日本ピラミッドに至る案内板、トイレ、遊歩道などは、整備から30年以上経過し、劣化が激しく役割を果たしていない状況でありますが、現在も多くの方が訪れられています。来訪を次につなげる意味からも、早急な整備が必要と考えますが、見解を伺います。

【八谷恭介市長】
ご質問にお答えいたします。
葦嶽山は山容がきれいな三角形をしており、山頂付近には巨石群もあることから、昭和初期に思想家の酒井勝軍（さかいかつとき）氏が日本のピラミッドであると発表し、広く報道されたことで、多くの見物客が訪れたと伝えられています。その後も雑誌等のメディアで取り上げられており、毎年一定の登山客が訪れるスポットとなっております。最近でも雑誌や新聞の特集記事で紹介されたこともあり、地元からは来訪客が増えていると伺っております。
ご指摘の案内板、トイレ、遊歩道等の施設につきましては、本市が整備したものと広島県が整備し本市が譲り受けたものがございますが、いずれも現在は本市が所有・管理をしております。
葦嶽山は本市の大切な観光資源であり、案内板や遊歩道の整備につきましては、財源を確保した上で整備を行うよう、現在検討を進めているところでございます。なお、整備内容につきましては、今後地元と協議を行いながら具体化してまいりたいと考えております。以上です。
【横路政之議員】
私もこの質問をする前に、頂上までは行けなかったんですけれども、行ってみました。久しぶりに行きました。ひどいもんです。休憩所もありました。休憩所にも行ってみました。トイレも、使用しようという気には、地元の方には失礼なんですけれども、なかなか厳しい状況があります。外観から周りの施設を見ても、水洗、簡易水洗のような構造になっていましたけれども、それも完全に果たしていない。そしてトイレもなかなかきれいに掃除はしていただいているんですけれども、どうかなというような状況になっております。
そして看板もですね、説明板についても、もう劣化が激しくて、文字も読めないようなところもありました。そういった意味で今回質問させていただいたわけでございますけれども。答弁の中で、予算を考えて整備をしていくと言われましたけれども、これは確認の意味ですが、整備はされるんですね？

【商工観光課長】
ご質問にお答えします。
整備については現在検討を進めているところであり、財源もまだ使えるかどうか定かではないんですが、一応使える財源があるのを確認しておりますので、それが使えれば、今後整備をしていく予定としております。
【横路政之議員】
細かいことを言うようですが、さっき言いましたようなトイレの改修と言いますか、県道からすぐ入る道にも簡易トイレですか、あれは県がたぶん整備して、床が抜けるのではないかというような、そういった状況があります。トイレットペーパー等は地元の方がきれいにされているんですけれども。先ほど言いました少し中に入った休憩所なんかも、これは根本的に水がいらないようなトイレにするということになりますと、相当お金がかかるんで、どこまで整備をするということは、地元の方との協議になると思うんですけれども、そういった点も考慮して整備をしていくというようなお考えなんでしょうか。
【商工観光課長】
ご質問にお答えします。
トイレの整備につきましても、近年トイレもトイレ自体を撤去して、自分がしたものは自分で持ち帰る

ような形のトイレ整備もありますので、そういったことも参考にしながら、でも葦嶽山でのトイレがどういうふうなものがいいのかというのは、地元とも協議をしながら整備を進めていきたいとは思っております。
【横路政之議員】
登山に関しては、前にも似たような質問が出たと思うんですけれども、重要なポイントだと思うんです。特に女性の方なんかが来られた場合は、こういったものが整備されていないと、もう二度と行かないというような、そういった感情になるのは目に見えてますんで、ぜひともこういった点も考慮して整備を行っていただきたいというふうに思います。
そして、案内板ですね。これもぜひとも地元の方と協議をしていただいて、必要なところは必ず整備をしていただきたいと思います。聞くところによりますと、過去に2人の方が場所が分からなくなって、遭難まではいかないと思うんですけれども、そういった状況になったというふうにお聞きしておりますので、ぜひともここは、地元の方が十分満足できるような整備にしていただきたいと思うんですけれども、しつこいようですが、再度ご答弁があれば伺いいたします。

【商工観光課長】
ご質問にお答えします。
議員おっしゃる通り、案内板があるなしによって迷子になったりする可能性もありますので、まず看板が落ちている部分については早急に整備しなくてはいけないと思っております。ですから今後、順番としてはまずは案内板の整備が急務だと思っておりますので、そちらの方から地元と協議しながら取り掛かっていきたいと思っております。
【横路政之議員】
いまでも登山に来られている方がおられますので、できるだけ早い整備を要望いたします。

---

## 有害鳥獣対策について

【横路政之議員】
では次に移ります。有害鳥獣対策について伺います。
有害鳥獣対策については、過去何回も一般質問等で質問・提案がされてきており、実行できる対策はほぼされていると思います。しかし近年、クマの被害の深刻化など、早急な対策が求められる案件が発生しております。クマ対策の本市の対応をまず伺います。
また、シカによる被害も拡大していますが、シカからの被害防止の早急な対応策は、イノシシ対策の対応ではないかと考えます。防護柵等は高さを必要とすることから、資材購入にかかる十分な補助が必要と考えますが、見解を伺います。

【八谷恭介市長】
ご質問にお答えいたします。
本市のクマ対策につきましては、目撃情報や痕跡情報などをもとに、人身被害を生じさせる恐れがあるかなどの緊急性を考慮しながら、テゴス職員と広島県から委託を受けているクマレンジャーと連携して現地確認を行っています。現地でクマの痕跡を確認した場合は、教育委員会や自治振興区など関係機関へクマの出没情報を提供するとともに、市のホームページや市公式LINE等で注意喚起を行い、市民の安全確保に努めております。
また、民家付近へ出没し、ミツバチの巣箱や柿の実等に執着する加害個体と認められた場合には、広島県に捕獲許可申請を行い、箱罠設置による捕獲に努めております。

防除対策としては、テゴスによる基本的な防除の普及指導に合わせ、クマが集落に出没しても餌にありつけない環境づくりを目指し、集落で実施するミリオ果樹伐採に対する支援を実施して、出没予防に努めております。

次に、ニホンジカの被害対策につきましては、2メートル以上の防除柵の設置が侵入防止に必要とされており、従来のイノシシ対策のメッシュ柵や電気柵では対応が困難な状況がございます。そのため、昨年度から市の有害鳥獣防除事業にニホンジカにも対応可能な複合柵の設置や、既設のメッシュ柵に対する機能強化策の設置も事業対象に追加し、農作物被害の軽減に努めております。
また、集落単位でメッシュ柵を貸与し、防除対策に取り組んでいる国の鳥獣被害防止総合対策交付金事業におきましても、市の制度と同様に、今年度からニホンジカにも対応した柵などの設置に取り組んでいるところでございます。以上です。
【横路政之議員】
まずクマなんですけれども、栽培コークは山県とかそういったところのように、市街に頻繁に出没するというところまでは行ってないんですけれども、やはりちょこちょこ聞くわけです。まだ人的被害というのは、過去には高野地域ではあったと思うんですけれども、旧庄原市内等々は聞いていないわけでございますが、やはり回数が増えてきますと、市民の皆さんもやはりこう心配と言いますか、対策等々、クマに対してはどこをどうしていったらいいかというのが分からないというのが実情ではないかと思うんです。だからそういった対策の広報等も、いろいろな場を通じてやっていく必要があるのではないかと思うんです。
そして、さらに今、クマよけですね。鈴とかスプレーなんかも販売されていますけれども、そういったものを購入するのも、少し庄原市として補助してあげれば、安全にはならないと思うんですけれども、そういったクマ対策の被害を抑えるための一助にはなるのではないかと思うんですけれども、こういった点にはどうでしょうか。

【林業振興課長】
ご質問にお答えをいたします。
現在、クマの関係で支援しております関係でございますけれども、市長答弁にもございましたが、ミリオ果樹、柿の木の実を取られていないようなところ、こういったようなところが誘引の要因になっておりますので、まずは集落でそういったものを排除していただこうということで、集落で取り組んでいただける所におきまして、支援をさせていただいております。また、鈴等におきましては、学校関係、一時クマが出た時にですね、学校関係には生徒・児童の皆さんに貸与があったのではないかというふうに思っております。
スプレー等につきましても、なかなかスプレーも風の向きとかですね、そういったようなことがございますので、よその事例とかももう少し情報収集しながらですね、どういった取り組みができるかといったようなところについては検討してまいりたいというふうに思っております。

【横路政之議員】
クマに関しても変化する事案なんで、山形のようなことになるか、そうならないかというのは分からないわけですけども、そういったことになった状況を見て、市民の皆様に対応できるような対策をとっていただきたいというふうに思います。
またシカなんですけれども、今のイノシシでも補助金の枠がなくなって、もう閉めると、電牧とかメッシュなんかもありますよね。途中で、要するに財源がなくなったんで募集は閉めるといったようなことを少し聞いたんですけれども、そういうふうになってるんでしょうか。

【林業振興課長】
ご質問にお答えをいたします。
これまではですね、予算額の範囲内でということで、その額を超えた場合には調整をさせていただいておった時がございます。しかしながら、ここ最近はその上限額まで補助金の方が届いていない、ま、補助金の方が足りておるという状況でございますので、現状では調整せずにですね、申請をされた補助額の満額を交付しておるという状況でございます。
【横路政之議員】
つまり、問題はイノシシもそうなんですけれども、シカとかサルもありますね。いろいろな有害鳥獣が発生しております。そういった中で、やはりこれだけというのではなしに、総合的にですね、やっぱり根本的に解決するような対策も必要ではないかと思うんですけれども、今後そういったことに対して市としてどういうふうな対応ですか、難しいと思うんですけれども、考えがあればお聞きしておきたいと思います。
【林業振興課長】
ご質問にお答えをいたします。
本市の有害鳥獣の対策でございますが、まずは防除の徹底していきましょうということ。次には加害個体を軽減していきましょうということで、捕獲も進めていきますよと。さらに地域環境改善と。この3つの柱の中で有害鳥獣対策を取り組んでおります。これはどの獣種でありましても、これを徹底していくことが一番の有害鳥獣対策になるというふうに考えておりますので、現行の補助事業でありましたり、普及活動等におきましては、テゴス等の職員も在駐しておりますので、そういった職員にも活躍をしていただきながら、各地域へ出向いていただき、適正な防除に努めていただくといったようなところも取り組んでおります。
さらに捕獲を進めていく上でですね、まだ少し捕獲ができておりませんが、野猿のICTに向けた取り組みも取り組んでおるような状況でございます。そういったような取り組みも含めながら、さらに捕獲の従事者の方の軽減につながるような方策もですね、新たな方策も含みながら検討してまいりたいというふうに考えております。

【横路政之議員】
ICTの提案も過去にされました。先ほど課長の答弁にもサルの活用ですね、そういったものも紹介がありましたけれども、あらゆる手立てを使ってですね、この有害鳥獣が減るような対策をスピード感を持って進めていただきたいと要望いたしまして、質問を終わります。
[音声終了]